

川本 一彦
千葉大学アカデミックリンクセンター

授業資料ナビ

学生	教員	職員
空間	授業	教材

初めて触れる
テーマでもこれ
なら、どんな本
からスタートし
たらよいか、も
う迷いません。

主題知識

多

教員

大学院生

学部3、4年生

学部1、2年生

少

・主題に関する調査が深い／必要な情報量は多いため

・主題知識を教えるほど、必要情報を選択する力がついてくる

・主題知識の少ないうちは、「どう場合に何を見れば良いか」求めるために、具体的情報収集が必要がある
⇒JICAファインダーが有効

授業資料ナビコーナー



図書には 授業名の帯をつけて配架
貸出用、館内用があります



とりあえず
この本、読
んでみよ♪



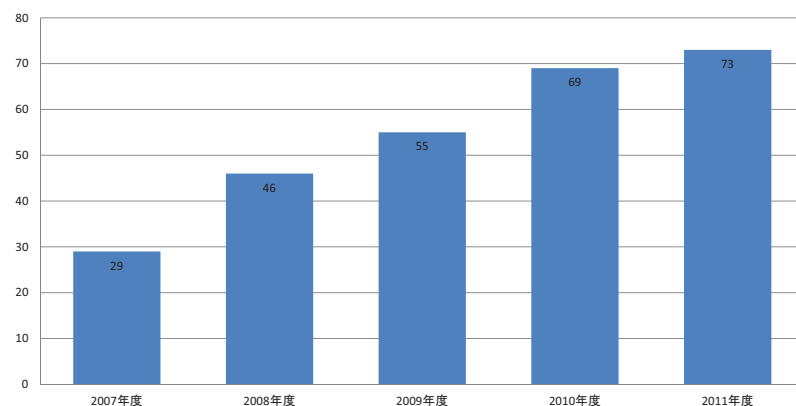
授業資料ナビゲータ作成状況

2007年に普遍教育(教養科目・人文社会学系)科目からスタート

2009年から文学部の授業にも展開

2010年からは普遍教育(自然科学系)にも展開

授業資料ナビ作成状況(2007-2011年度)



授業資料ナビは教員と図書館員との共同作成



プロジェクトを進めるためには教員の協力が不可欠

撮影する授業の
リストアップ

オンライン・
クラスルーム

電子化する教材
のリストアップ

デジタル・
コースパック構築

レガシー・
コンテンツ再生

電子化する図書
のリストアップ

児童文学辞典(日本児童文学学会編, 東京書籍, 1988年)

児童文学を初めて学ぶ学生にとっては必須の参考図書



20年以上図書館で利用された結果
500ページ以上欠落

千葉大アカデミックリンクセンター・DNP共同プロジェクト

動画だからわかる物理熱力学・電磁気学編(丸善出版)



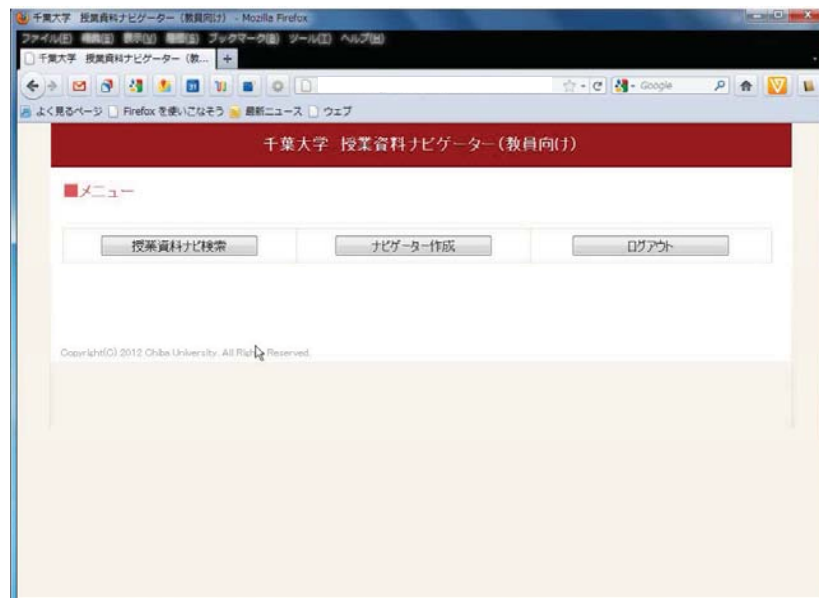
千葉大アカデミックリンクセンター・DNP共同プロジェクト

授業資料ナビシステムを開発してます

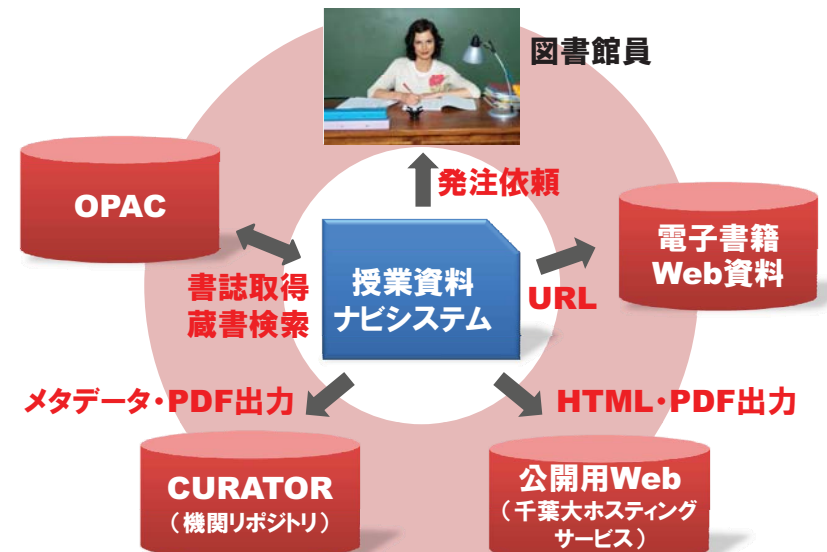
- ・**手作業での作成**（資料選定, HTML・PDFファイル作成）
- ・**年度始・終に集中的に作業が発生**
（授業を扱う以上避けられない）
- ・**ログをシステムティックに残せない**
（データ分析や他システムへの接続が面倒）



授業資料ナビシステムを開発してます



授業資料ナビシステムを開発してます



システム開発を通して見えたこと

・OPACへの接続が難しい

－他システムへの接続を意識したAPIがない。
もともと、「閉じた」設計思想???

・電子書籍・資料の管理をどうするか？

－電子書籍の蔵書管理はこれからの課題。
－さらに、書籍を章単位などもっと細かく管理するために、例えば、DOI(Digital Object Identifier)などを付与すると
その管理はどのようにするのか、という課題

多様な入手へ向けて

